豊平区・清田区研究実践園研究事業

研究便り

豊平区・清田区幼保小の心と心をつなぐ

札幌市立かっこう幼稚園･認定こども園にじいろ　合同号　令和6年3月14日発行

～豊平区･清田区研究実践園　合同研究事業～

研究主題　『質の高い幼児教育の実現に向けて
～つながる　ひろがる　札幌市の幼児教育』(研究実践園全市共通)

研究副主題　『多様な教育・保育環境における幼児期にふさわしい生活のために』
（豊平区・清田区共通）

研究の重点　**『心を動かし、思いをもって遊び込む幼児を育むための
保育者の援助・環境の構成について探る』**
（豊平区・清田区共通）

札幌市立かっこう幼稚園（豊平区）・認定こども園にじいろ（清田区）では、上記の研究主題・副主題・重点のもと、研究アドバイザーの木村彰子先生（札幌国際大学教授）に御協力をいただきながら、合同で研究を進めております。(３年計画）各園での実践研究で分かってきたことをお知らせいたします。

豊平区の紹介

♡ハートフル・とよひら

～今年度の研究のまとめ～

札幌市立かっこう幼稚園では、「幼児の“遊び込む姿”とは具体的にどのような姿なのか？」「そのために大切な保育者の援助･環境の構成とは何か？」をポイントに置いて、研究を進めてきました。その中で分かってきたことをお知らせいたします。

～各学年で具体的に見えてきたこと～

◎“遊び込む”幼児の姿とは？

＊保育者の援助・環境の構成で大切なことは？

３歳児『塩ビ管を使った砂・水遊び』
～年長児の遊びに刺激を受けて～

＜３歳児＞
◎友達（他学年含む）から刺激を受けて、自分なりにやってみたり、繰り返したりすることを楽しむ姿

＜３歳児＞
＊興味をもったモノに触れ、「〇〇したい！」が“すぐに”“継続的”に楽しめる場の設定
＊扱いやすい遊具や用具を多めに用意する。
＊目に留まりやすく、いろいろな幼児が加わって遊べる広い空間

４歳児『動く車づくり』
～作り方を年長児に聞いてみよう～

＜４歳児＞
◎「もっと〇〇したい」いう思いやイメージをもって作り出す姿
◎友達や年長児に分からないことを聞いたり、できるようになったことを友達に教えてあげたりする姿
◎教師や友達に認められることを喜び、自信をもって取り組む姿

＜４歳児＞
＊好きなこと、やりたいことを追求できる場と時間の保障
＊その子のやりたい遊びを軸に、友達との関わりを支え、その子の良さが伝わるようにする。

５歳児『キノコすごろく』
～友達と考えを出し合いながら～

＜５歳児＞
◎先行経験からアイディアを出したり、友達のやり方を取り入れたりして目的に向かっていく姿
◎好きなものや喜びを共有して、仲間と作り上げていく姿
◎年下の幼児にも分かるように伝えたり、楽しんでもらえるように工夫したりして、やり遂げる満足感や達成感を味わう姿

＜５歳児＞
＊経験を生かせる遊びの投げかけ
＊目的やイメージの実現に向けて、仲間同士で考えを出し合えるモノ･場の工夫
＊異年齢交流のきっかけづくり

＜全学年共通で大切にしたいこと！＞

＊一人一人の思いや楽しみどころを捉え、やりたいことを繰り返し楽しめる場と時間の保障。

＊異年齢同士が関わりをもてる担任間の連携

＊願いやビジョンの事前共有

“何を経験させたいか？”“必要な環境をどこまで出すか？”などの願いやビジョンを事前に話合い、他クラスの幼児理解・関わり方を共有する。

≪研究の成果≫

① 子どもたちに見られる変化・育ちは？

- ○ 他学年の保育室を行き来しやすくなり、どの遊びに入っても安心して過ごしている。
- ○ 先行経験を生かしながら、自分で考え、試行錯誤するようになってきた。
- ○ できなくても、諦めなくなった。
- ○ 友達と考えを出し合うようになり、違う考えを否定しない関係性も育ってきている。（いざこざも多数経験した上で）

② 保育者にとっての学びは？

- ○ 一人一人に必要な援助を行うために大切なことが見えてきた。
  - ・遊びを方向づけていくか、今楽しんでいることを十分に保障するかの見極め
  - ・一人一人の実態と担任の願いをすり合わせて援助を考え、保育者同士で共有する。
  - ・保育者が出過ぎず、“引きの援助”も大切
- ○ アンテナを張って、子どもの興味関心や伸びようとしているところ、担任の意図などを捉えていくことが大切。
- ○ 先行経験には、“下の学年時の経験”“異学年からの刺激”“家庭や地域の体験”などいろいろな要素があり、経験の生かし方にもいろいろあることが見えてきた。
- ○ 何でも環境を整えて出すのではなく、年上の友達の遊びを見て、「うわぁ、すごい！」「やってみたい！」と幼児の心が動いて始まる遊びを大事にしたいと考え、環境を出すようになった。

また、研究副主題『多様な教育・保育環境における幼児期にふさわしい生活』とのつながりで、**“教育時間”だけではなく、“預かり保育”（長時間保育）を含めた園生活が『幼児期にふさわしい生活』となることを目指し、**預かり専任保育士と連携を図ったり、研究アドバイザーの木村彰子先生に御助言をいただいたりしながら、研究に取り組んでいます。

今年度は、預かり保育（通称『にこにこタイム』）の生活について、ビデオカンファレンスやエピソード検討を通して、具体的に探り、話し合いを行ってきました。研究を通して分かってきたことは以下の通りです。

～預かり保育の話し合いを通して～

一人一人の体力や生活リズムに合わせた一日の過ごし方を考えていけるとよい。そのためには、子どもの様子について、教師や専任保育士、保護者との情報共有が大切（一日の各時間帯で、意欲や行動面で違う一面を見せることも）

教育時間では“遊び込む”を、預かりでは“休息やゆったりと過ごせる場の保障”など、それぞれの時間帯で「幼児期にふさわしい生活」があるのでは？

教育時間や預かり保育で行う活動そのものが直接つながらなくても、経験や「やってみたい！」という幼児の思いをつないでいくことが大切。

預かりの“異年齢”“少人数”という環境は、一人一人に丁寧に関わっていける良さがあるが、友達と共通に楽しみに思える活動を意図的に働き掛け、「楽しかった！」という思いを共有できる経験も大切。

清田区の紹介

からふるさとた

札幌市立認定こども園にじいろでは、「子どもたちはどんなことに興味や関心をもっているのか」「遊びが始まるきっかけ、子どもの気持ち」に着目し、研究を進めてきました。

今年度の研究から見えてきたこと・成果

友達や保育者、年上の子、お家の方、メディアなどの影響や、自分自身の経験など子どもたちが「楽しそう」「面白そう」と興味をもつきっかけは様々です。保育の中で、それらをどう生かすか、またどのように友達とつながっていくのかを考えていくことで遊びが更に盛り上がり、発展していくことにつながったと思います。

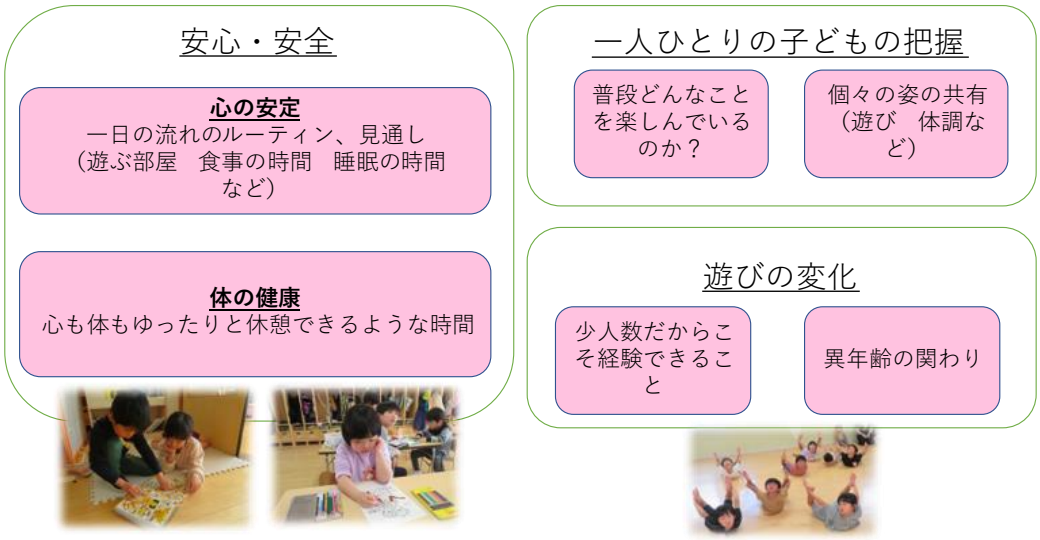
遊び込むことでの子どもの姿の変化

個々の遊びが充実することで友達や保育者とつながっていこうとする姿がみられました。夢中になって遊ぶ経験の中で、自分から発信する力や粘り強く取り組む力、友達と関わって遊びを作り上げる力を育んでいくことが小学校以降の学びにつながっていくと話し合いました。

遊び込む子どもたちを育むための保育者の援助

遊びの始まりに着目していくことで、保育者自身も子どもたちの新たな一面や興味に気付いたり、知ろうとしたりする意識が付きました。それらが子どもたちの「楽しい」「やってみたい」「またやりたい」気持ちにもつながっていきました。

長時間保育だからこそ大切にしたいこと



様々な保育時間の子どもたちが生活しており、生活スタイルも多様化してきています。家庭での生活を含め、一人一人の子どもの姿を把握していくことが大切です。体調や気持ちの把握なども子どもたちの主体的な遊びにつながっていくと考えました。

次年度に向けて

２区合同の研究を通して、どちらの園でも“遊び込む”ことで子どもの育ちや学びが見られ、そのために大切な保育者の援助・環境の構成について共通理解を図ることができました。特に、幼稚園の預かり保育やこども園の午後の時間など、園で長時間過ごす子どもたちの様子についても把握していくことで、**“遊びへの思いや経験をつないでいくこと”“一人一人の生活リズムを大切にすること”“保育者同士・家庭と情報を共有して連携を図ること”の大切さが分かってきました。**

次年度も、長時間保育も含めて『幼児期にふさわしい生活』の在り方について、２区合同で研究を進めながら、分かってきたことを発信していきたいと思います。